

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0692500051		
法人名	特定非営利活動法人やまなみ		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	山形県最上郡最上町向町644-3		
自己評価作成日	平成24年10月15日	開設年月日	平成 22年 11月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、地域の人たちとの交流を通じて、普通の市民生活を 2、利用者1人ひとりの生活のペースを尊重し、寄りそった介護 3、介護の質の向上のため、旺盛に職員研修、学習を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 11月 13日	評価結果決定日	平成 25年 1月 4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季の自然を眺める事ができる広々としたリビングで、利用者は歌を歌ったり、ぬり絵をしたり、ゆっくり新聞を読むなど思い思いに過ごしています。職員は一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、ホームの理念である「慣れ親しんだ生活の継続を尊重し、自尊心と個性を大切に、その人の能力をできるだけ活かした、その人なりの充実した安らぎの生活が送れるよう援助します。」を念頭に置き、関わりに心掛けています。開所二年目ですが地域へ様々な情報発信を行い大きな支援の輪を広げ、家族等、地域からも信頼が厚く「やまなみに入って良かった」と嬉しい声も聞かれ更に期待の出来る事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有はできていると思うが、全てを実践につなげるには、法人、職員の努力にかかっている。	毎月のミーティングや研修の中で確認し合っている。一人ひとりの生活リズムを共有しながら思いを受け止め、無理強いすることなく、その人らしい安らぎのある生活ができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所のい煮会やまつり、コンサートなどに参加している。商店街で買い物をして交流を深めたい。	地区の花火大会や芋煮会、小学校の演奏会などへ地域の一員として参加し、利用者の笑顔に繋がっている。ボランティアの来訪も多くコンサートなどで楽しみ、又、2ヶ月毎の会報を銀行や商店などへ配布し、日頃から積極的な交流を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が2ヶ月に1回会報を発行し、グループホームのくらしや生活の様子、活動を地域に発信している。町のほぼ全世帯を含め、3500部発行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で、話し合いの内容や出された意見を記録に残し、教訓となる意見を取り入れている。	定期的開催し参加者からは意見、要望も出され有意義な会議となっている。活動状況報告の他、毎回テーマを設けメンバーの方に認知症についての勉強会をしてもらい理解を得る事で、双方向的関係を築き、「開かれた事業所」になるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の健康福祉課に会報を届けている。運営推進会議に包括支援センター長の出席をいただいている。	町の担当窓口には運営推進会議の報告や会報を届けるなど、顔の見える関係を築いている。同法人では被災地石巻の施設への支援や協働で「福島インキャンプ最上」で福島の子供達を招待し、救援活動を行うなどサービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束はしていない。自由に行動させている。外に出たい利用者がいた際は、なるべく付き添い、一緒に外に出て会話をするように心がけている。	事業理念の「拘束を行いません」を心に留め正しく理解し、共有しながら取り組んでいる。外出傾向が見られる場合は声掛けなどの工夫や、一緒に付いて行くなど、見守り、安全を確保しながら自由な暮らしができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待について学び、事業所内では虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料や書籍はいつも見られるようにそろえている、集団での学習はまだしていないが、個人個人では学んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、契約事項を読み上げ、説明してから契約している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話等で意見や要望にすぐに対応している。	家族等には利用者の生活の様子を毎月お便りで伝え、来訪時は気軽に話せる雰囲気づくりに配慮している。意見、要望等は申し送り時やミーティングで周知徹底を図り、日々のケアに活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングで話し合い、情報を共有し、意見を出し合っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、全職員に向上心を持って働けるよう、労働条件の整備に努めている。法人に賃金委員会を設けて、給与体系の整備を検討している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福祉・介護の講習会、セミナー、講演会等に参加したり、他の施設との交換研修に参加している。月1回のミーティング時に集団学習を行っている。	内部では毎月のテーマに沿って代表者が講師になるなど、様々な勉強会を実施している。外部研修にも積極的に参加し伝達講習を行い、意識を高め切磋琢磨している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県境を越えた宮城県大崎市のグループホームとの交流、県内の交換研修、最上地区GH連絡会の研修に参加している。	2ヶ月に一度の最上地区グループホーム連絡協議会の集まりへ管理者が参加し、年に2回は職員同士の交流もあり、互いの情報交換をしている。又、認知症高齢者グループ協会へ代表者が加入するなど連携を図り、福祉の向上を目指している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	些細なことでも傾聴し、利用者の要望、訴え、不安を理解できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時にホームについてよく説明し、安心していただくよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所してしばらくは、全職員で利用者さんをよく観察し、サービスにつなげている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝いなどをしてもらっている。一緒に座って話をしながら、関係を築けるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族になるべく多く面会に来てもらい、家族といっしょに支えあう関係づくりに努めている。写真入りのたよりを毎月家族に出している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知人、友人、近所の方にひんばんに来所していただいている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人でさびしい思いをさせないように、同じテーブルに集まったり、ボール投げ等のレクリエーションの時に、体力のない人に対する思いやりなどが出てきている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	はじめて退所者が10月に出たが、しばらくして、移ったホームに面会に行ってみようと思っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人のペースや希望にあわせ支援するよう心がけているが、忙しい時などに、介護者本位になってしまうこともある。	一人ひとりの生活歴を把握し、毎日購読する新聞への拘りや楽器を弾きたいなどの意向に沿えるよう努めている。毎日の関わりの中で職員のペースにならないよう留意し、食事は食べる直前に盛り付け、温かい物を提供するなど日々の関わりに配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスをしながら努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、トイレチェックをし、見守りながら把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できていると思う。	利用者、家族等の情報を基に、毎月のミーティング時や3ヶ月毎のカンファレンスで日頃の気づきを共有しプランに活かしている。見直しの場合は家族等の同意を得て「利用者本位」を大切にその人らしい楽しみのある生活ができるよう、個別の介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に記録したり、申し送りで伝えているが、職員間でうまく伝わっていないこともあった。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	NPO法人として、会員、ボランティアの協力を得る努力がまだ十分でないと思う。通院介助へのボランティア参加を進めていきたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院や開業医に家族につれていってもらったり、医療機関の送迎を利用し、適切に対応している。	かかりつけ医の受診は家族等の協力を得ているが、付き添えない場合は職員が同行している。受診を通して家族等との関わりをより大切にする事で、利用者に笑顔が見られている。結果は状態変化がある時などは、きめ細かい申し送りを行い職員間で共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時に、気づいたことや、心配なことなど相談し、見てもらっている。ケアのポイントなどをアドバイスしてもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリを利用し、入退院時の対応に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「指針」を説明し、アンケートをとっている。全職員で「重度化と看取り介護の指針」の学習を数回やっている。	事業所の方針についての勉強会を全職員で実施する事で、看取りへの対応強化に努めている。利用者、家族等が安心して納得した最期を迎えられるよう、今後も医療対応の確保に力を入れていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2名の職員が応急手当研修に参加し、この2名を講師に全職員でAEDの使用方法、救急時の対応について訓練した。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、春、秋に利用者、職員、法人会員、近所の方々(自主防災組織)と避難訓練を行っている。震災時の備蓄も完了した。	防災会社の協力の下、年2回の避難訓練を実施し、地域住民の参加を得て協力関係を築いている。夜間訓練の反省として職員の更なる意識向上を図りたいと考えている。町内の自主防災組織にも加入し、備蓄等も整え災害時に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけてはいるが、難しいので、探り探り対応している。	関わりの中でその人に合った声掛けや馴れ合いの中にも尊厳ある言葉遣いに配慮している。利用者の笑顔に繋がる事や、一人ひとりの気持ちを第一に考え行動に移し取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を十分に聞いて、支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そうしたいと心がけ努力している。利用者を優先し、気分よく過ごさせるよう支援している。電話で家族に自由にかけてもらえるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる人は、本人に選んでもらう。洋服の準備や、顔を拭いたり、髪を整えたりは支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき等、直接食材に触れて、あまり手が汚れないことはおおいにやってもらっている。季節にあった献立を心がけている。	利用者の好みや旬の物を献立に取り入れ、下準備や後片付け等を職員と一緒にしている。出前寿司は大人気で利用者から喜ばれ、時々外食などにも出かけ楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立づくりに、栄養バランス、食べやすいように工夫している。1人ひとりの状態に応じた分量を調整し、摂取量を食後記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。声かけ、見守り、介助で対応している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状態に合わせて、声かけ、トイレ誘導をしている。これ以上低下しないよう現状維持に努めている。	一人ひとりの状況に合わせた声掛けやさり気ない誘導を行っている。無理強りする事なく自尊心を大切に、いつも穏やかな気分で過ごせるよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなどの乳製品を毎日摂取し、野菜、いも類などバランスのよい食事作りを心がけている。水分摂取も十分にしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	介護者が工夫して入浴介助を行っている。(日勤者と遅番の連携)入浴時間帯は午前中、個々の希望を取り入れるのはなかなか難しい。	個浴で職員との会話も弾み、ゆず湯などでリラックスできる工夫をし、ゆっくり寛げる入浴となっている。安全面では二人で介助したり、濡れた床は直ぐに拭く事など徹底している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温などを調整して、よく眠れるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてはファイルがあり、目を通せるようになっている。服薬するまで3回確認して、服薬している。誤薬をしないように気をつけている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴をしながら、みんなでおやつを食べたり、食事作りの手伝いをしてもらったり、音楽の好きな方は、ピアノを弾いたり、ハーモニカを吹いたり、歌を唄ったりしている。買い物に行きたいという要望に答えられていない。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周りや、テラスなどには職員が付き添いして出してもらっている。ドライブ、コンサート、外食等にでかけている。ボランティアを募り、散歩などもっと外に出すように心がけたい。	天気の良い日は皆で事業所の周りを散歩したり、ドライブが大好きで、東沢バラ公園やコンサートなど様々な所に出かけている。外出先では目くばり、気くばりを行い転倒防止等に心掛け、楽しい外出支援に繋げている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族が管理しているが、希望があれば、家族と買い物に行ってもらい、好きなものを買うように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望があれば、電話をかけたり、手紙を出すのを手伝っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほぼできていると思う。いただいた絵や写真、飾り物などを展示、飾っている。外の景色がよく、リビングが明るいので利用者には、季節感が感じられるようだ。	皆が集まるリビングでは、その人らしいゆったりとした時間の流れがある。大きな窓から見える景色も良く和みの場となり、落ち着いた空間となっている。手摺の取り付けや引き戸の開閉箇所にはラバーを貼るなど安全に配慮した工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、自室、ソファなどで、それぞれ思い思いに過ごしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってきた布団やタンスを使用し、家族も季節に合わせて、布団や衣類を持ってきてくれる。仏壇も持ってきている。	家族等と話し合い、馴染みの物や大切にしている物を持参している。居室の入り口を閉めずに過ごし落ち着く利用者もおり、意向に沿った居室づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットは全て介護用ベットに切り替えた。手摺を付けたり、角のあるところにラバーを張り、安全・安心に生活できるよう改善した。			